

大槌の「人」の魅力を発信する ひょうこりひょうたん塾通信

# Tatsutto

vol.6



発行日 2016年2月20日

発行 特定非営利活動法人つどい

web サイトでも、通信が見られます。

HP <http://www.hyotanjuku.jp/>

FB <https://www.facebook.com/hyoutanjyuku>

撮影場所 / 小鉾

表紙モデル / 藤原テエ子

この冊子は「平成27年度 岩手県復興支援の担い手の運営力強化実践事業」の助成金によって作成されています。

責任も伴うけれど、得意な調理で商売出来るのが楽しい



Tatutto なひと  
黒沢航大さん (23)  
惣菜 つくし

Tatutto なひと  
伊藤靖浩さん (38)  
伊藤左官工業



左官業をとりまく現状を知ってもらい、将来は技術を弟子に伝えていきたい

### 調理を学ぶ大槌へUターン

町内にある商業施設の入り口をくぐると「惣菜 つくし」さんの店頭には、お寿司、お弁当、お惣菜などが色とりどりに陳列され、食欲をそそります。それらお料理の数々に、舌鼓を打つ町民の方々も多いでしょう。

「惣菜 つくし」さん(以下つくしさん)はこの商業施設がオープンした20数年ほど前に黒沢さんのお父様が創業しました。震災ではお店も自宅も被災しました。震災の年の12月には商業施設は再建を果たし、つくしさんも業務を再開。震災が起こったときは、黒沢さんは県内の調理師学校に通っていて、実家から「人手が足りない」と聞き、お店が再開してから間もなく大槌に帰ってきました。

「自宅の一階にある厨房で小さい頃から遊んだりしていて、父の仕事を見ていました。正月は特に注文が立て込み、とても忙しく、高校生の頃はアルバイト的に手伝ったりしました」

つくしさんでは震災後、お惣菜店のほか、フードコートで海鮮を扱った飲食店も始めました。黒沢さんは主にお惣菜店の厨房、そして飲食店の調理・接客を任されています。「お弁

当を作る仕事が好きです。最近では父の知り合いの調理師さんたちにも料理を教わってもらったりしています」

### 腕を磨いて仕事の幅を広げたい

お父様は言葉で教えるというより、「見て覚えて欲しい」という姿勢に見えたそうです。

「18歳から約5年間、調理、飲食店の接客の他に仕入れも任された。ほとんどが独学ですが、従業員の方々にも仕事を教えてもらいました。仕入れが大変ですね。お客様の予算によっては素材にいいものを使ったりします。そしてやっぱり調理するのが一番得意ですね」と話します。

実家で商売するということは、自分の好きなように商売出来る反面、責任も伴います。普段は厨房の中にいることが多く、お客様と接する機会は少ないものの、配達に出かけたとき



惣菜 つくし  
〒028-1121  
大槌町小槌 27-3-4  
シーサイドタウンマスト 1F  
TEL 0193-42-8181  
(文 駒林 奈穂子)

### 中学の頃からなりたかった

「実家が左官業を営んでおり、中学生の時には『左官をやりたい』と決めていました」と話す伊藤靖浩さん。実家は本町で、おじいさまの代から70年以上、左官を中心とした建設関連業務を営んでいました。中学生の頃には時折、足場を組んだり手伝いをして、端で家業を見てきたという伊藤さん、「高校に進学するよりも仕事をしたかったです」と話します。

しかし、家族から、進学しておいた方がいい、大学にも行っておいた方がいい、とアドバイスをを受け、関東の大学に進学し、その後、金物工事の施工管理会社に就職しました。26歳の時にお父様が病気になる、「帰ってきてはどうか」と言われ、関東での生活に心残りも感じずUターンしたと言います。

「帰ってきた当初は大槌には『正社員』になれる仕事がありませんでした。そこで実家の左官の仕事を始めました。最初の頃は水波み、道具の洗浄、材料の運搬などをやり、そのうち左官もやらせてもらえるようになりました。父は仕事を言葉ではなく見て覚えて欲しいと思っていたのか、仕事はひたすら『目

で』覚えしました。自分自身で綺麗な仕事出来るようになったと感じたのは震災後です」

### 左官業の人手不足を解消したい

震災で実家は被災し、町内の知人宅に避難しましたが、震災10日目辺りから釜石の現場の修繕が始まり、その後、住宅再建などで仕事が切れ目なく続いています。

「震災の前はコンスタントに左官の仕事があるとは限らず、建設現場で他の仕事をすることもありました。震災後は2年間お盆と正月以外はほとんど休みなして働きました。今、左官を生業とする人が減っているという現実を痛感しています」

全国的に人手不足と言われる左官業。この四半世紀の間に就業者は半減以下となり、高齢化が進んでいます。この危機的状



伊藤左官工業  
〒028-1121  
大槌町小槌 26-131-3  
TEL 0193-42-4127

況に、平成27年には日本左官業組合連合会が、若手技能者の確保・育成と技能の伝承が出来る環境整備などを、左官業振興議員連盟に要望しました。近隣では、遠野高等職業訓練校にて建設関連の技能者を育てるために「認定職業訓練」を実施しています。

「大槌でも左官業は高齢化していて、現在の60代以上の方々が引退すると私を含む若手3名のみとなってしまいます。弟子にやりたいという人がいたらとりたいと思っています」

左官業の現状も伝えたく今回の取材を承諾してくださいました伊藤さん。町内の同業者とともに仕事上の情報交換も行い、「左官業を生業として、かつ技能を伝承する環境を整えたい」と考える日々が続きます。

(文 駒林 奈穂子)



めながら自然と会話も弾みます。寒い日でしたが囲炉裏の周りは柔

です。金沢で採れたシイタケやきらず団子、野菜を炭火であぶりま

昔のライフスタイルを見直して丁寧な暮らしに憧れる若者が増えています。古民家を現代風にリノベーションして住むことがブームになっているように、古いもの活かしながら自分の暮らしを創る人が増えている気がします。



らかいで熱で包まれ、体も温めてくれます。手間をかけて作ったチーズフォンデュは格別でした。食後は南部鉄器で沸かしたお湯でお茶を飲みながら、おばあちゃんから昔の金沢村の話の伺いました。この家は曲がり屋で馬・牛を飼っていたこと、蚕を育てていたこと心も体も温まり思わず長居をしてしまいました。帰りを見送ってくれた家主さんまでどこか嬉しそう。



文・Mikitty 写真・Hana Ozawa 撮影場所・金沢

全国のTabuttoな取り組み  
「農家のこせがれネットワーク」

農業をおもしろくする世代。



この国の農業のあすを耕すための、いちばんの近道。それは、農業のこせがれたちが実家に帰って、元気に農業をはじめることです。都会でのビジネスで培った経験を、農業に活かすこせがれ。ソーシャルメディア、デジタルツールを使いこなすこせがれ。既存の枠にとらわれず、

若い感性で大胆に行動できるこせがれ。

農家のこせがれたちと、食や農業に関心が高い生活者がつながれる場を作りだし、就農へ向けて踏み出す農家のこせがれを応援するために活動しています。近い将来、農業が「かっこよく、感動があつて、稼げる」3K産業へと成長し、小学生の就職希望ランキング1位になることをめざして！

<http://kosegare.net>

Tabutto / たつととな人

自分のスキルを磨きチャレンジを続けていく人(達人)率先して動き、考え、最後までやりとげる人(立人)地域や周りの魅力・可能性を引き出していく人(発人)「たつとど・」粋な思いがまちに浸透していくことでしょうか。技を引き継ぎ、チャレンジを楽しむTabuttoな人達の手にかかると、まちは、さらに興味深く創られていくことでしょう。

事務局 元持幸子

※たつとど＝大槌の方言 水滴が滴り落ちる様子を表す擬音語